



2019年3月18日

報道関係各位

NapaJen Pharma, Inc.

## アステラス製薬と新規核酸医薬品の創製に関する共同研究契約を締結

NapaJen Pharma, Inc.（本社：米国カリフォルニア州、代表取締役：安藤弘法、以下「当社」）は、このたび、2019年2月28日付でアステラス製薬株式会社（本社：東京都、代表取締役社長 CEO：安川健司、以下「アステラス製薬」）と新規核酸医薬品の創製に関する共同研究契約を締結しました。

核酸医薬は、次世代医薬品として期待され市場規模も拡大しています。一方で、標的臓器・標的細胞以外にもデリバリーされてしまうため、高用量の投与が必要となり、それに伴う製造原価の増大や副作用などの開発課題が顕在化しています。これらの課題に対して、当社は核酸医薬に多糖であるシゾフィラン（SPG）を複合体化させる技術「DDSテクノロジー」を利用し、低用量で標的細胞にアプローチできる核酸医薬の開発を目指します。

今回の契約では、アステラス製薬が開発を目指す創薬ターゲット（ターゲットは非公開）に対して、当社が保有するDDSテクノロジーにより核酸医薬/SPG複合体を作製し、両社共同で画期的な新規核酸医薬品の開発候補品の創製を目指します。今回の提携は、核酸創薬に対する当社のDDSテクノロジーが高く評価された結果と考えています。

今回の契約に伴い、当社は契約一時金及び研究開発支援金を受領し、共同研究の進捗状況に合わせてマイルストーンを受領する予定です（いずれも金額は非公開）。

当社は、アステラス製薬をはじめ複数の製薬企業と当社のDDSテクノロジーを用いた協業を通じて、革新的な新規核酸医薬品の創製を推進して参ります。

### 【NapaJenのDDS\*テクノロジーについて】

本テクノロジーは、核酸医薬をSPGの受容体であるDectin-1\*\*を発現する樹状細胞やマクロファージに選択的に送達させることを可能にし、SPGと複合体化された核酸医薬は、核酸医薬そのものに比べて、より低用量で高い薬効と安全性を発揮することが期待されます。

実際、当社独自の開発品であるNJA-730は全身投与により標的分子の遺伝子発現を特異的に抑制することがサルを用いた薬理試験で確認されており、サルを用いた安全性試験において、臨床想定投与用量の100倍以上の用量でも明らかな毒性は認められませんでした。ヒトにおいても安全性の高い技術であることが大いに期待されており、現在、健常者を用いた臨床第一相試験をオ

ーオトラリアで実施中です。

本技術の応用範囲は、樹状細胞の関与する自己免疫疾患、移植拒絶、各種免疫炎症疾患、がんの免疫療法、そのほか、マクロファージの関与する各種疾患（非アルコール性脂肪性肝炎（Non-Alcoholic steatohepatitis: NASH）、肺線維症、骨粗しょう症など）と多岐に渡ることが期待されます。

\* DDS : Drug Delivery System 薬物送達システム

\*\* Dectin-1 : 多糖類 $\beta$ -グルカンの受容体. SPGも $\beta$ -グルカンの1種

**【本件に関する問い合わせ先】**

NapaJen Pharma, Inc.

c/o NapaJen Pharma 株式会社

研究開発部門、取締役アシスタント

小原 真弓

住所 東京都小金井市中町 2-24-16

農工大・多摩小金井ベンチャーポート302

電話, FAX 042-316-6773

e-mail [press@napajen.com](mailto:press@napajen.com)

コーポレートウェブサイト <http://napajen.com>